

★ 録画テレビの選び方 ★

録画テレビは大きく分けて4種類、メーカーによっても特色アリ
それぞれの特徴を知った上で、自分に合った録画テレビを選ぶべし!

パナソニック 東芝 日立
録画と再生の手軽さではNo.1
「見たら録画番組は消す」人向け
外付けや交換型HDDとの併用モデルも

内蔵HDDタイプ

本体内蔵のHDDに録画するタイプで、他に録画メディアを購入することなく録画することができるという手軽さが最大のメリット。録画容量に限界があるため、いっぱいになると古い録画内容から自動的に消去されていく。そのため長期の保存には向かない。

東芝
東芝の独自機能で、最大8台の
外付けHDDを録画先として設定可能
「大量の番組を録画」する人向け

外付けHDDタイプ

市販の外付けHDDを本体に登録して録画するタイプ。複数のHDDを登録できるので比較的容易に録画容量を増設することができるところが最大のメリット。ただし、登録したHDDはその本体以外ではたとえ同じシリーズのモデルであっても録画・再生はできない。



東芝 REGZA Z9000/R9000シリーズ

「R9000」はUSB HDDのみ、「Z9000」はUSB/LAN HDDを、それぞれ最大8台まで登録することができる。録画画質はTSのみ。なお、録画機能にも違いがあり、「Z9000」で可能な地デジ視聴中の2番組同時録画などは「R9000」では利用できない

内蔵HDDのみ

パナソニック BRAVIA R1シリーズ

42V型以上のサイズは500GB、37V型以下は250GBのHDDを内蔵し、わかりやすい操作性を特徴。約2倍の長時間録画対応

内蔵HDD+HVR

日立 Wooo XP03/XP035/
HP03/XR02/HR02シリーズ

「03」シリーズは250GB、「035」は500GBのHDD内蔵。さらにカセットHDD、IVDR-Sで録画容量を自由に増やす



内蔵HDD+外付けHDD
東芝 REGZA ZX9000/
H9000シリーズ

ともに500GBのHDDを内蔵するが、「ZX9000」は「Z9000」と、「H9000」は「R9000」と、それぞれ同等の録画機能を搭載。市販外付けHDDへの対応も、それぞれのモデルに準拠

コストパフォーマンスではパナソニック「R1」、複数利用なら東芝「Z」や日立「XP03」もあり

結論！

「ブルーレイへのみ録画可能」な
AQUOS唯一の録画テレビだが、
ソフト再生としての用途の方が大きい

ブルーレイ
タイプ

BDに直接録画するタイプでHDDは内蔵していない。HDD内蔵タイプより録画容量の限界は近いが、ディスクの差し替えで簡単に容量を追加できるうえ、録画内容の保存性も高い。また、BDドライブは録画はBDのみだが、BD・DVD・音楽CDの各種ソフト再生が可能



「DX2」では操作性が一新されている。録画一覧やネット機能などは番組を見ながら呼び出すことが可能。各種調整メニューも同様で扱いやすくなっている

シャープ AQUOS DXシリーズ

20V型以外はすべて「DX2」に更新している。前モデルよりネット機能が向上し、多彩な動画コンテンツの視聴が可能だが録画できるのは放送のみ。ただし、録画テレビとしてはレコーダーを丸ごと搭載している「BHR300」以外では本機だけがディスクソフトの再生が可能、という点はメリットだ



使い勝手はHDD録画タイプに及ばず
リビングサイズの大型よりも個人サイズ向け

結論！

USBで4台、LANで最大8台を同時接続可能

「Z9000」の場合はUSB HDD4台、LAN HDD8台を同時接続可能。録画先を各HDDから選べるほかUSB～LAN接続のHDD間で録画した番組のムーブもできる。「R9000」の場合は4台までのUSB HDDを同時接続して使い分けることができる



外付けHDDを買って初めて録画可能
視聴専用テレビとしての使い方もできる

結論！

三菱電機

世界初の「ブルーレイ+内蔵HDD」
両搭載テレビ。編集機能など、より
「レコーダーの性能」を求める人向け

内蔵HDD
+ブルーレイタイプ

いわゆるBDレコーダーをそのまま一体化させた構成で、三菱「BHR300」が唯一のモデル。同社レコーダー「DVR-BZ130」を機能ごと搭載しているので、録画・再生・編集・ダビングがひとり行える。内蔵HDDは320GBで、5.5倍までの長時間録画に対応する。



三菱電機 REAL BHR300シリーズ

テレビ本体にBDレコーダーをそのまま搭載したこと、レコーダーとしてのフル機能が利用できる。録画番組を編集し、BDに残すのもこれ一台で完結する点はメリット。32V型と37V型のみで、画面の向きを調節可能な「オートターン」機能を搭載する



スタンド部分に
ディスクドライブ搭載

スタンドネック部にディスクトレイを装備するため、テレビの側面にメディア挿入のためのスペースを用意する必要はない。レコーダー分の設置スペースも不要となる省スペースモデルだ

まだだ！

高い編集機能は便利だが、
同社レコーダー同様の反応の遅さが残念

結論！

40V型以上で実質9万円台以下の圧倒的コストパフォーマンス!

以前までのREGZA「A」シリーズと異なる、十分な画質とフルスペック
元々の安さと最大効果のエコポイントで一番のお買い得テレビに!

薄型
テレビ
40V型~

春登場の「8000」シリーズに遅れ
て今夏登場した40V型で、秋のフル
ラインナップ更新後も継続されて
いるモデル。東芝はこの秋の更新で
「A」シリーズ以外はすべて録画機
能を搭載したため、本機は録画機能
のないシンプルなモデルという立ち
位置となっている。

とはいっても、他メーカーのシンプル
機にはない自動画質調整機能を搭
載しており、40V型としては必須の
倍速フルHD、従来機よりワンラン
ク上の高画質エンジンなど、総合性
能は決して見劣りしていない。それ
でいながら価格は40V型としては破
格といえるレベルにあるのは大きな
魅力と言える。

SPEC DATA
パネル 40V型液晶
画素数 1920 × 1080
デジタルチューナー 地上・BS・110度CS × 1
主要端子 HDMI × 3、D4 × 1、Sビデオ × 2、ビデオ × 3
年間消費電力 117kWh/年
サイズ W997 × H683 × D276mm
重量 約 18.2kg

TOSHIBA REGZA 40A8000

実勢価格 11万8500円 エコポイント 23000点 発売日 2009年6月



エコポイント効果のもっとも
大きい40V型は、録画機能のない
REGZAではA8000にしかない!

42V型と大差ないサイズだが、エコポイントは5000円お得



A9000との性能差はほとんど無いが、40V型はA8000のみ

パネルや高画質エンジンなど、他の
「A8000」シリーズよりもワンランク
上なので、より画面サイズが大きな
40V型でも画質面での見劣りが少ないと
ころが大きな違いだ

A8000

19V型、22V型、26V
型、32V型、40V型

「40V型」のみ
フルHDと
倍速を搭載

A9000

26V型、32V型、
46V型

「46V型」のみ
フルHDと
倍速を搭載

ココが
ベストバイの
決め手!

40・42V型液晶としては、
シンプルながら十分な
性能をもった使いやすさが魅力

基本的なスペックを満たしていくながら、同時に画質調節の手間を省く「おまかせドンピシャ高画質」を搭載している点は大きなメリットがある。昨年上位エンジンを搭載することでスタンダードクラスながらも、より高画質を志向しているところもうれしい。

A8000シリーズの中で唯一、フルハイビジョンパネルを搭載

フルハイビジョン対応	○	高画質エンジン	○
倍速(120Hz)駆動	○	超解像技術	✗
光沢パネル	✗	録画機能	✗

環境に適した画質に
自動調節してくれる「おまかせドンピシャ」も搭載



時間経過で変化する視聴環境に合わせてテレビ自身が画質を最適化する「おまかせドンピシャ高画質」を搭載。画質調節の手間を省いてくれる機能だ